

那覇港国際クルーズ拠点整備事業

事業評価に係るバックデータ

事業名	那覇港国際クルーズ拠点整備事業
-----	-----------------

1. 事業概要

構成施設	岸壁(水深12m)、泊地(水深12m)、ふ頭用地、旅客上屋	
事業期間	平成31年度～平成33年度	
事業費	110億円	

2. 費用

	単純合計	基準年における現在価値(C)
事業費	109.4億円	95.4億円
管理運営費等	1.5億円	0.6億円
合計	110.9億円	96.0億円

3. 便益

	単年度便益	基準年における現在価値(B)
国際観光収入の増加	18.7億円	354.0億円
残存価値	20.6億円	2.6億円
合計	—	356.6億円

(注)端数処理により、合計は必ずしも一致しない。

4. 結果

費用便益比(B/C)	3.7
純現在価値(B-C)	261
経済的内部収益率(EIRR)	16.0%

5. 感度分析

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比
需要	クルーズ隻数:400隻	±10%	3.3～4.1
事業費	110億円	±10%	3.4～4.1
事業期間	3年	±10%	3.7～3.7

6. 費用便益分析の条件

分析対象期間	50年	社会的割引率	4%	基準年度	平成30年度
--------	-----	--------	----	------	--------

事業名	那覇港国際クルーズ拠点整備事業
-----	-----------------

■事業費内訳

項目	単位	数量	金額(億円)	備考	
工事費					
岸壁(水深12m)	式	1	81		
	本體工	式	1	81	
泊地(水深12m)	式	1	2		
	浚渫工	m2	10,431	2	
ふ頭用地	式	1	22		
	直轄	m2	7,000	12	
	起債	m2	12,149	10	
旅客上屋	式	1	4		
	建築工	棟	1	4	
合計			110		

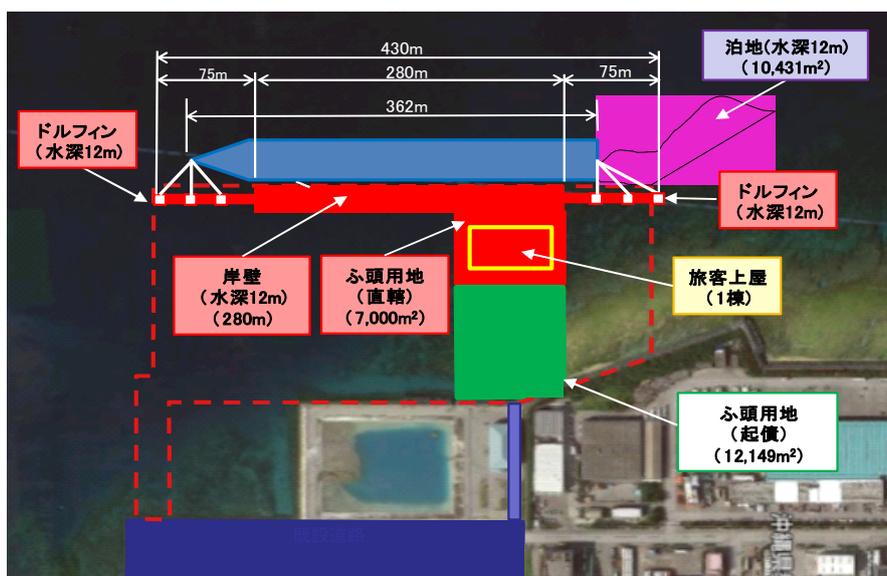
※港湾請負工事積算基準及び類似事業箇所の実績より算出している。

■管理運営費等

項目	単位	数量	金額(億円)	備考
管理運営費	式	1	1.5	

※港湾管理者へのヒアリングにより算出している。

■概要図



便益計算

①国際観光純収入の増加

Without (整備なし)	既存施設(泊ふ頭旅客船ターミナル、新港ふ頭地区9号岸壁)を利用
With (整備あり)	既存施設(泊ふ頭旅客船ターミナル、新港ふ頭地区9号岸壁)、 新港ふ頭地区 国際クルーズ拠点ターミナルを利用

○便益計算

項目	With	Without	備考
クルーズ船寄港隻数 (隻/年)	400	365	2020年代前半(H36年)におけるクルーズ需要および With時、Without時の受入能力を基に設定
1隻当たりの平均旅客数 (人/隻)	2,970		入港実績および今後の入港予定により設定
1人当たり観光消費額 (円/人)	20,000		港湾整備事業の費用対効果分析マニュアルに基づ き設定
国際観光純収入 (億円/年)	213.8	195.1	隻数×1隻当たりの平均旅客数×1人当たり観光消 費額×海外母港率
国際観光純収入の増加額 (億円/年)	18.7		With－Without